

地域密着型サービス評価の自己評価票(2階ユニット)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念をスタッフルーム内に掲示し、全スタッフが常時目にはしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全スタッフが基本理念を常に念頭に置き、日々の業務に取り組んでいる。また、ミーティング・社内研修を通し基本理念の理解を深めている。	基本理念にもあるように、「当たり前のことを当たり前」の言葉を基にその人らしい生活できるようサービス提供に努めている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域の方が来館された際、目に付きやすい場所へ掲示している。また、ホームページ等も同じ理念の浸透に社内全体で取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ボランティアの方を常時受け入れ可能な状態とし、地域交流の一つとして取り組んでいる。また、気軽に立ち寄ってもらえるよう玄関に花を飾ったり、家庭的で明るい雰囲気を作るよう努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の方々との交流の一環とし、地域ボランティアを招いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実際に、介護に関する相談を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実施する意義を理解し、評価結果を基に見直し改善を行い入居者がより良い生活を送れるよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		○	今後、運営推進会議を行う予定である。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	今後より良いサービス提供の為、実施していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学びの場として、スタッフミーティング・会議・社内研修等を活用している。		実際に成年後見制度を活用している方もいる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修に参加する等し、情報をスタッフへ伝達している。また、虐待が見過ごされることがないように常に注意を払い防止に努めている。		高齢者虐待防止法について、理解を深められるよう勉強会を行いたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は、分かりやすく丁寧な説明を行うよう心掛けている。入居者やご家族に納得して頂けるよう十分な説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その都度、入居者から話を聞き、できる限り本人の苦痛を取り除けるよう支援している。また、入居者の意見をミーティングで取り上げ、対応策を検討している。	時には、館だけの問題とはせず他館管理者も含め社内全体の問題とし、運営に反映させている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の様子や健康状態を「いっしん便り」を活用し、毎月報告している。また、毎回写真を同封することで、言葉だけでなく様子が伝わるようにしている。	病院受診の際等は、その都度連絡している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、来館された方々が意見を述べやすいよう配慮している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフミーティングを実施し、職員の意見・提案を聞く機会とし反映させている。その他、館長会議・主任者会議の場を活用し意見交換がなされている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者・ご家族の状況に応じ、要望に答えられるよう努めている。また、必要な職員を確保する為、勤務調整も行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の心身への負担を考慮し、異動や離職を最小限に抑えるよう努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が開催されており、良い勉強の場としている。また、外部研修の参加も積極的に取り組んでいる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会を介し、意見交換するなどしサービスの質の向上に努めている。また、相互訪問も行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不安や悩みが生じた時には、気軽に相談できる関係が築けている。また、男性ミーティングという弊社独自の取り組みもあり、男女共に働きやすい環境作りに努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各スタッフの能力や努力する姿勢、勤務態度を把握しており、向上心を持って働けるよう努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	信頼関係を築き、本人が抱えている悩みや思いを受け止められるよう心掛けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から話を聞く機会をつくり、抱えている悩みや思い、求めていることを受け止められるよう心掛けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含めどのようなサービスを必要としているか検討している。		実際に他事業所を紹介するなど、本当に必要とされているサービスを提案させて頂いている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に新たな環境に馴染んでいただくことを、第一に考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切に考え、洗濯物を畳む等家事と一緒にしている。自分の祖父母のように家族の一員と捉え、日々一緒に過ごしながらスタッフも学んだり支え合う関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフもサービス提供をする上での悩み、抱えている問題をご家族に正直に伝え、共に入居者を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の家族関係を把握し、個々の対応を心掛けている。また、夏祭りや恒例の一泊旅行などの行事にご家族様にも参加して頂き、同じ時間を共有して頂いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に添う形で馴染みの人に会ったり、行きたい場所へお連れしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりの特徴を把握し、入居者間のトラブルを回避できるよう努めている。また、互いを気にかけて世話をしてくれたり、良い関係が築けている。		食事の際、他入居者の配膳・下膳を自然と手伝っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後も、関係を断ち切る事無く継続的な関わりを大切にしている。長期入院の為、一時退去になった際も病院・ご家族との連絡をとり合う等。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時も本人の意向を聞き取り、意向に沿ったケアを提供できるよう一人ひとりの気持ちを大切にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず面接を実施している。また、ご家族・病院・施設等より情報を提供して頂き状況把握に努めている。		会話のどを通じどのような生活を送られていたのか情報を収集し、馴染みの環境を提供できるよう努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの日々の過ごし方、心身の状態、有する力をスタッフが把握できるようにし、その時その方に合った対応を行えるよう努めている。		目に見える状況だけではなく、3ヶ月に一度認知症スケールを実施し、状態の変化を総合的に把握できるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたり、アセスメント・本人・ご家族の要望を踏まえた上で、課題を明確にし意見やアイデアを盛り込んだケアプランを作成している。		医師・看護師等、本人に関わるサービス提供者の意見も交え作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行い、変化が生じた際は新たに作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にて日々の様子やケアの実践等を記入し、情報の共有に努めている。		日々のケアの実践からの気づきを、ケアプラン見直し時に活用している。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの他に、生活支援付住宅・有料老人ホームを有し本人の要望・生活状況等に応じ支援できる仕組みを備えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア・警察・消防・文化・教育機関の協力を得ている。	○	今後、民生委員との交流を持てる機会を作り、地域に根付いたグループホームを築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、他のサービスを利用する為の支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、地域包括センターと協働してはいない。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な往診を受けると共に、体調不良者がいる場合は密に連絡を取り合っている。状況に応じ、他医療機関を紹介してもらい受診することもある。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の医師は認知症を深く理解された上で、診察を行ってくださっている。また、精神科往診も定期的に行うことで適切な治療・診察を受けることができる。		精神科医と協力病院医師との間で、情報を共有し治療を行う体制が整っている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は入居者の状態を把握されており、適切な意見を仰げる。		入居者も看護師を認知しており、なじみの人の一人である。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会時に担当の医師・看護師に状態を確認し、早期退院に向け情報交換や連絡・相談を行っている。		入院時、医療機関へ情報を提供し、入院期間中の生活が本人の苦痛になることがないよう努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化に応じその都度、ご家族・医師と話し合いを行っている。		どちらか一方の意見を尊重する事無く、入居者を第一に考え話し合いを行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々の状態の変化に応じて、医師にも相談をしできること・できないことを見極めた上で対応を行っている。随時、ご家族にも状況を伝え要望を確認している。		対応が困難と判断された場合は、本人が現在必要とされているサービスを受けられるよう提案・紹介を行っている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際には、本人・ご家族とも話し合いをする。転居先へ受け入れ態勢を整えてもらえるよう、情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は人生の先輩であることを念頭に置き、日々接している。また、個人情報や目につきにくい場所に保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者にどうしたいのか尋ね、希望に沿った対応ができるように心掛けている。優しく・分かりやすく説明し支援を行っている。	質問をする際は、本人が答えを出しやすいような質問方法を用いている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人の意思を尊重している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしさを表現できるよう衣服等を選ぶ際は、本人の意向を確認している。また、弊社の訪問理容を利用される方もいるが、それ以外の方は希望される理美容店へお連れしている。	その人らしさを大切に、身だしなみは自己表現の一つと捉えている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、献立を作成している。また、時には外食や出前を取るなどし、食事を楽しめるよう努めている。	旬の食材を調理することで、季節感を感じてもらえるようにしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	身体に差し支えないよう注意はするが、本人の希望を尊重している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄状況に応じ、トイレ誘導・介助を行っている。また、日中はリハビリパンツ、夜間はおむつ使用と状況に応じ使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として入浴日や時間帯は決めておらず、本人の希望に沿って支援している。		固形石鹸、てぬぐい等を用意し、昔から馴染みのある物を利用している方もいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人が安らげる居住空間を提供している他、床に着く際は寝衣に着替え休んで頂いている。		不眠傾向がある方には、日中の過ごし方を見直し適度な運動を取り入れるなどしている。それでも改善されない場合は、医師に相談し睡眠導入剤を服用して頂くこともある。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分自身の存在証明が見出せるよう、個々の力に合わせた役割を持って頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はスタッフにて行っているが、一人ひとりの希望や力量に応じお金を持ち使えるよう支援している。		買い物に行った際は、金銭の受け渡しも行ってもらっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣を散歩するなど、戸外に出ることは日常化している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に一度、一泊旅行に出掛けている。その他にも、外出の機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は入居者が自由に使用している。手紙も本人に渡している。		電話の子機をホールに置き、入居者が自由に手にできるようにしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者が落ち着いて、本人と話ができるよう配慮している。		面会時間を設定することなく、いつでも訪問できるようにしている。また、宿泊していただくことも可能であり、遠方からの面会者が宿泊されることもある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はせず、危険のないよう支援している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけて行動を抑制する事無く、対応している。施錠は夜間のみ行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在の確認は常時行っているが、不快感を与えることが無いよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は夜間スタッフルームに保管している。薬や消毒液は棚に保管し施錠している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応を学び、事故が起こった際にも適切な対応ができるよう努めている。		ヒヤリハット・アクシデント報告書を活用し全スタッフに回覧することで再発防止、危険回避に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフは研修・普通救命講習を定期的受講し、緊急時に備えている。	○	普通救命講習を未受講のスタッフに対しては、現在受講者にて指導を行っている。今後、受講を予定している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を年に二回実施している。	○	今後、地域の方々の協力を得られるよう働きかけていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	スタッフミーティングにて入居者一人ひとりのカンファレンスを行い、リスクを回避するよう努めている。		入居者の状態に応じ今後起こりえることを、ご家族に伝えている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	急変時は、医師・看護師と連絡を取り合い迅速に対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用、用法・用量については個別記録ファイルにて全スタッフが把握できるようになっている。		経過観察を基に、症状の変化を確認し医師へ報告している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を調理に取り入れることを心がけている。また、毎日乳製品を提供している。その他、適度な運動や腹部マッサージを行い便秘予防に努めている。		状態によっては、医師に相談し下剤にて排便コントロールを行うこともある。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを個々の状態に合わせ、舌ブラシ・スポンジを用い行っている。		毎月 歯科往診を受けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を把握している。		献立は栄養士に確認して頂いたり、助言を受けるようにしている。また、定期的に行う血液検査の結果を基に、栄養状態の把握に努めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成している。感染症に関する資料も作成しており、全スタッフにて周知している。食事前の手指消毒を入居者・スタッフ共に徹底している。		入居者・スタッフは、インフルエンザ予防接種を受けている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理の一環とし、調理器具用のアルコールスプレーを使用している。また、食器類も消毒を行っている。		調理等を行う際は、専用のエプロンを着用している。食材によっては、直接手で触れずポリエチルグローブを使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に植物を飾ったり、一般家庭のような雰囲気を大切に誰もが来館しやすいようにしている。門扉は設置されているが、日中は開放している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓にはレースカーテンも使用し、光の調整している。また、季節感を取り入れた壁面の飾りつけを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で過ごせるよう、ソファ・ベンチ・和室を用意してある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思考に合った居室になるよう、使い馴れた家具を置く等している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜換気を行っている。室内の温度は天候や時間帯によって調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、安全かつ自立した生活を送れるようになっている。		手すりは細めで握りやすく、木製の物を設置している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口に表札を掛けている。表札は個々の目線に合わせて、設置している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでのお茶会を行うこともある。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)